

協議会ニュース

2号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

57.12

- 町の中の子ヨウと環境指標性（安藤 尚）----- 1
- 自然観察情報
 - ・森林の種類（佐藤 国彦）----- 2
 - ・応急手当（1）（岩崎 龍生）----- 5
- 会員広場
 - ・守山の古墳と東谷山の自然（石田 肇）----- 6
 - ・第1回『東谷山の古墳と自然観察』研修会の感想（都築 尚子）- 7
- 地域情報
 - ・知多半島新産植物報告（相羽 福松）----- 8
- 協議会行事報告----- 9
- 自然観察会等の紹介----- 10
- 印刷物紹介----- 10
- 行事案内----- 11



海ガモ

（海ガモと淡水ガモは、水面にいる時、
飛び立つ時の形がちがいます。）



淡水ガモ
（陸ガモ）



中都市のほぼ中心にある私の家の小さな庭に、毎夏ルリタテハが訪れる。そして1世代を過ごして飛び去っていく。ホトトギス(ユリ科)が植栽されているからである。

ルリタテハは、本来、雑木林のチョウで、幼虫はサルトリイバラ(ユリ科)を食べて育つ。

高校生の頃(30余年前)には、郊外では極く普通に見かけるチョウであったが、この頃は、そんなではなくなった。ルリタテハの生息に適した自然環境が、次第に減ってきたからにほかならない。

庭では、ルリタテハのほか、アゲハチョウやアオスジアゲハも姿を見せ、幼虫も育っていく。1本ずつの小さなカラタチとクスが、その舞台である。

チョウが舞い下り、幼虫まで育つ場所と聞くと、豊かな自然が想像されるかも知れないが、実際は市街地の真只中で、巨大なビルこそないが、まったくの都市砂漠的環境である。

ルリタテハやアゲハチョウは、移動する性質をもったチョウで、羽化すると向もなく、幼虫時代の生息地を離れて新天地へ旅立っていく。くわしいことはほとんどわかっていないが、全ての個体が移動するのではなくて、ある条件が満たされると、特定の個体が移動性を獲得するようになるらしい。このような個体が、都市の中にもやってきて産卵していく。豊かな自然に恵まれた供給地があるから、住宅地の小さな庭で、チョウの生活が見られるのである。

近頃、自然環境の良好さを判断する一つの目安として、特定の動物の生息状況を手がかりとする方法が使われる。「環境指標動物」という考え方である。そのことは正しいと思うが、市街地に多くのチョウが生活するようになったからといって、必ずしもその自然環境が良くなったとはいえない。供給地の自然環境の変

貌によるチョウの変化が、市街地のチョウに連動しているだけのことが多い。供給地（本来の生息地）と移動先とがセットになって、この種のチョウの生存を成り立たせているのである。

もっとも、チョウの種類によっては、移動性をほとんど持たないものもあって、それらが都会に現れることはない。そして、土地開発によって減びていくのは、こういうチョウである。

（名古屋電気高校教諭・協議会顧問）

自然観察情報

森林の種類

佐藤 国彦（日進町）

森にはアカマツ林とか、カシ林など、いろいろな種類があることは一般に知られていますが、それがどのように成立するかは、なかなか理解されていないようです。

観察会等で森の種類を決めるためには、まず高木の中で最も数の多い種は何かをポイントとします。それがアカマツならアカマツ林とするわけですが、2種類の木がともに多ければ、アカマツ・コナラ林のように表現します。林の種類をさらに細かく定めるためには、さらに低木層に注意させます。同じアカマツ林でも、モチツツジの多いもの、アセビの多いものなどがあり、それぞれアカマツーモチツツジ林、アカマツーアセビ林などと表現できます。実際には高木と低木はそれぞれの土地条件に応じて関連して生えるもので、正確な植生調査では、各地の林を調べて一定の群落名が定められていますが、自然観察会などでは、前記の方法で定めるくらいで十分でしょう。

林の種類が定まったら、それがどのように分布しているかを調べ、さらに林の種類が場所により異なる原因を考えます。そしてそのためには、遷移に関する知識をもつ必要があります。

一般に、裸地に生えてくる樹木は、陽樹であるアカマツ、コナラなどで、このため草地の次には、アカマツ林など陽樹を中心とした林が成立します。しかし、これら陽樹の種子は、林の中では

日光が不足して芽生えても成長ができず、代わりにカシ類など陰樹とよばれる樹木が生えてきて、やがて、アカマツ等が枯れた後はこれら陰樹の林が成立します。そして、一度成立したカシ類などの林は後継者を育てていつまでも続きます。このような移り変わりを遷移とよび、この結果、いつかはその土地に最も合った形の林がつくられますが、これを極相とよびます。観察会では、いくつかの林でその高木の種類とその芽生えの状況、植物の種子の散り方とその種の分布の広げ方の関係等について考えさせるとよいでしょう。

ただ観察会においては固定した考えにとらわれることは危険であり、常に自然から学ぶという態度が必要です。遷移についてもその土地のいろいろな条件により影響を受けるため、いつも同じパターンをとるわけではありません。例えば、やせた尾根などでは、土の中の養分の蓄積がなかなか進まず、そのためアカマツの成長も遅く、ネズミサシヤツツジ類など日当たりを好み、やせ地に耐えられる植物が多く混ざっています。こうした場所では、長い間、同じような植生が続くことが考えられます。また、沢の近くの湿った場所では、ハコノキやクルミなどが多く混ざってきますし、海拔500mくらいの山地ではモミ、ツガなどの林に近づいてきます。このように森林の位置する場所の地形や土壌条件によって、林自体の内容も異なるとともに、遷移のようすも違ってきます。こうした点を観察するためには、林を構成する主要な樹種（優占種）だけでなく、どのような樹木が混じって生えているかを見なければなりません。

このため1つの方法として、林の断面図を作ってみるとよいでしょう。例えば、林の中で10m位の長さのひもをひっぱって、それを横から見てどんな木がどのように生えているか絵に書いてみます。ついでに枝や樹冠の重なり具合にも目を向けさせます。林床の草本もわかれば書くほうが良いでしょう。大きな木は直径く

胸の高さで)又は周囲の長さを測って書き込むとよいでしょう。
 絵ができたら、その横に地形、方角、土壌のようすなどを、略図
 を使ったりしてメモします。

断面図よりさらに詳しく調べるならば、表にまとめる方法もあります。林の地面に10m×5m(10m)の四角形をひもでつくり、その中に生えている樹木(わかれば草本も)を高木、中木、低木(草本層)にわけて表にまとめます。種類ごとに本数(又は被ふく度)も調べます。



こうして、断面図や調査表をいろいろな林でつくって比較してみます。例えば、同じアカマツ林でもその立地条件によってどんな木が混じって生えているか、またアカマツ林とコナラ林では、その林の構成種はどのように違うかなどを考えます。

さらに、低木などでどんな林にでも生えているようなものはあるか、高木と低木、又は低木どうしなどでいつもいっしょに生えているようなコンビはあるかなども調べてみます。断面図の場合は林の縁から林の中に向かって作ってみると、マント群落のようす、林の明るさと樹種の違いなども観察できます。1つの林でも何か所か調べてみると、どこか違いがでてくるでしょう。

自然観察会に参加する人たちは、植物の名前を覚えたいという気持ちが強くて、そうした希望をかなえながら、あわせて林のしくみを教えるには、1つの観察会で2~3ヶ所このような作業をさせてみるとよいでしょう。簡単な林の断面図を書かせる中で、樹木の名前とあわせて高木と低木の樹形の違い、葉の大きさやつき方の関係なども観察させることもできます。ただ耳で聞くだけでなく、作業の中で確認できることは、印象深いはずですよ。

また、指導者として、本や他の人からの知識だけでは身についたものとはならないので、実際に自分でこのような作業を行ってみることも必要でしょう。

身をもって自然に接することにより、自分の知識を得ることができるのです。

応急手当 (1)

岩崎 龍生 (守山区)

ここで紹介するのは、傷の悪化を防ぎ、回復を早めるための方法です。医者に見せるまでの応急手当です。又、日赤で救急法の講習会も行われていますので受講されると良いと思います。

1. 脳貧血

症状：顔面蒼白。めまい。冷汗出す。卒倒する。

手当：着物をゆるめ、日陰で空気のよく通る所で、頭を低くして、あおむけに寝かせる。声高く呼びさます。意識がさめた時は冷たい茶又は水を飲ませる。

2. 脳充血

症状：顔面が赤くなる。頭痛。めまい。鼻出血。

手当：着物をゆるめ、日陰で空気のよく通る所で、頭を高くして、横に寝かせる。冷たい手ぬぐいで頭を冷やす。

3. 日射病

症状：身体がだるくなり、頭痛。めまい。顔が赤らむ。

手当：着物をゆるめ、日陰で風の通る所で頭を低くして、あおむけにし、声高く呼びさます。意識がさめた時には冷たい茶又は水を飲ませる。

4. 切り傷

手当：ヨードチンキ、マーキュロクロームですぐ消毒し、ガーゼをあて包帯をする。切り口の小さいものは消毒用アルコール、赤チンキで消毒し、バンドエイド使用。

5. 打撲症

手当：傷部を冷水で湿したてぬぐいで冷やし、静かにして、度

々冷布をと리카える。

6 ざし傷

蜂や蚊にさされた時は、針を抜きとり周囲から押して毒をしぼり出す。アコモニアをぬり、湿布で冷やす。

山ひるにかまれた時は、塩をぬり込む。

7 鼻血

1. しばらく鼻を左右からつまみ圧する。

2. 頸部の被服をゆるめ、頭部を高くして冷水布で冷やす。

3. ガーゼを固くしぼり、鼻の穴に栓をする。

8 腹痛

症状：へその上、水落ちの所が痛むのは胃痛、へそより下の痛むのは腹痛です。

1. 胃痛：口の中に指先、羽毛を入れて吐かせ、腹部を温める。

2. 腹痛：温め浣腸する。

9 ねんざ

患部にヨードチンキ、イヒチオールを塗布し、又はほう酸水で湿布包帯する。

会員広場

守山の古墳と東谷山の自然

石田 肇（緑区）

10月17日、A.M.10:30より約4時間の研修会であった。先ず、会員の内田氏と地元有志の方から志段味の古墳について話があった。特に貴重な資料を基に白鳥古墳群の説明や、この中の白鳥一号墳（6世紀後半の円墳）は横穴式で昔のままの姿で保存管理されている点は、遺跡としても価値が高いものと思われる。これと対称的な“山の田古墳”これは墳丘が無くなり、石室の跡と見られる巨大な石だけが残っている点は惜しまれる。守山の付近は畿内政権が東国に進出する拠点にあったといわれ、数多くの古墳が東谷山西側に存在しているが、現在、庄内川を渡る架橋と新設道路の

計画が具体化しており、これが古墳群にも大きな影響があるようである。この点は地元の有志の方の説明と強い訴えがあった。文化財と自然保護の共通の問題であり、心配される点である。

東谷山では登る途中の林や森の状況、野鳥の説明などの指導を佐藤、岩崎両氏から受けた。東谷山（海拔198m）は名古屋市で最も高い山で頂上には尾張戸神社があり、ここが瀬戸市との境いといわれている。この頂上付近と山麓に建築廃材やプラスチック材、空き缶などのゴミ捨て場所を目撃し“道徳心、地に落つ”の感を深くし残念に思った。不心得な人々に対する積極的な指導が必要であり、これ以上の自然破壊が進まないようにすべきである。

山頂での昼食後、2回、林の部分的な断面図の作図練習が行われた。この作図作業は植生の観察には大変良い指導法の一つと思われる。帰途は、大きなドングリの実や鳥の声これらの種類や鳥の名前を論議しながらの下山であった。

第1回『東谷山の古墳と自然観察』研修会の感想 都築 尚子（東区）

思ったよりの多人数で第1回の研修会は行われた。テーマとしては古墳を中心にということであつたが、私が経験した常日頃の自然観察に比べ少し分野が異なっており、又、別の知識が入りおもしろかった。自然観察は生物学的な要素が強いものだと思つていたが、歴史、文学etc---を大いに含めると一般の人にもよりいっそうの興味をだかせるのではないかと思つた。例えば、ある植物の前でその植物が出てくる詩や万葉集等の歌を唱えてみるのもよいのではないだろうか。そして、その歌（特に古い時代のものがおもしろいと思う）におけるその頃の自然環境を説明し、今と比較してみるのも一つの方法だと思ふ。

参加者について実際のところ10人くらいの参加人数だと思つていたが、その予想をはるかに越えて30人以上はいたと思ふ。あれくらい的人数だと2グループに分けた方がよかつたのではないかと思ふ。ただ今回の場合は指導員の研修であるから、わざわざ分

けることもないかもしれないが。人数が多いということは、先頭と後ろがかなり離れてしまい、前のグループと後ろのグループにわかれてしまう。そして両方に別々の話がもちあがりその両グループのまん中にいたりすると、どちらに行こうか迷っているうちに両方とも話が終わってしまうという具合になってしまう。こんなことで話が聞けない所もかなりあった。指導員であるなら自分で話をもち出すこともしなければならいなあとも思った。

ただの自然観察だけに終わらず、ゴミを取り上げそれについて話し合ったこともいいことだと思う。これからの自然観察会にも少しずつでもゴミ等日常の生活に関係のある自然保護を入れていくべきではないだろうか。具体的なテーマに入れなくても、指導員が個人的に話をするだけでもいいだろう。とにかく第1回の研修会は無事に終わった。

〈 地 域 情 報 〉

知多半島新産植物報告

相羽福松(武豊町)

私は知多半島の各地を歩き、植物を観察していますが、今までに未発表と思われる種を確認したので、ここに記してみた。

○マメスゲ(カヤツリグサ科) 1982.4.8武豊町の湿地で発見した。別名イヤマメスゲともいわれ、東海地方を本場として、関東地方まで分布している稀産種。

○ヤマスズメノヒエ(イグサ科) 1982.5.23南知多町篠島で発見した。山地の植物ですが、島に自生していたとは、分布上興味深い。

○マツカサススキ(カヤツリグサ科) 1982.9.4知多市の溜池で群生しているのを発見した。西三河にわずかに自生しているのみで、県下での稀産種。

これらの植物は自然度の高いところに自生しているので、いつまでも環境を守ってやりたいものです。

〈 協 議 会 行 事 報 告 〉

1 役員会 57. 10. 2 於 東別院青少年会館

。出席：会長、副会長、各支部代表者

。協議事項

①58年度の自然観察会実施について

(県から協議会へ自然観察会を委託した場合に、各支部で対応できるか検討する。)

②自然観察指導基本方針(仮称)について

(協議会の活動についての考え方をまとめることとなる。会員の意見を聞いたうえ、総会で決める。)

③自然観察会実績のとりまとめについて

(会員が主となって行った自然観察会は、一定の様式でまとめて、年度末に各会員へ配布することとする。)

④自然観察指導員以外の会員について

(自然観察指導員以外の者でも各支部代表の推せんがあれば、会長は協議会員として認めること。)

⑤今後の活動について

(調査、研修会について検討する。)

2 編集委員会 第3回 57. 10. 25 於名古屋市教育館

3 支部の設置

8月～9月に次の3支部が設置され、既に設置されたものと合わせて7支部となりました。

名 称	設置年月	代表	庶 務	会員数
名古屋地区自然観察研究会(西部)	57.8.22	岩崎龍生	6名	18
“ “ (東部)	57.8.29	佐藤国彦	石田 肇、小向智晶	19
尾張自然観察研究会	57.9.5	内海勇夫	伏屋光信	22

4支部の活動

- 奥三河 57. 8. 8 長の山湿原(作手村)観察会 (10名)
- 知 多 57. 8. 21 東浦町周辺のため池観察会 (8名)
- 東三河 57. 9. 15 県自然観察会事前調査(葦毛湿原) (12名)
- 名古屋(西・東) 57. 10. 17 志段味の古墳と東谷山の観察会 (27名)
- 知 多 57. 10. 24 美浜町オシロイライロ観察会
- 西三河 57. 10. 24 真福寺の森(岡崎市)観察会
- 奥三河 57. 10. 31 桜井(新城市)の地質観察会
- 東三河 57. 11. 21 宮路山(音羽町)くらがり溪谷観察会 (14名)
- 尾 張 57. 10. 24 県自然観察会事前調査(犬山市善師野) (14名)

〈 自然観察会等の紹介 〉

◦ 鳳来寺山自然科学博物館観察会

58. 2. 13 10時同館集合、指導：高木典雄他、定員30名

希望者は同館(05363-5-1001)へ申し込むこと。

◦ 愛知県森林公園探鳥会

58. 1. 16 10時～15時、指導：浅沼秀夫他、無料、定員70名。

希望者は愛知県森林公園協会公園課(05615-3-4478)へ電話で1月5日以降。

◦ 愛知県弥富野鳥園探鳥会

58. 1. 16. 10時20分～12時20分、定員30名、申し込みははがきで、同野鳥園まで。(申し込み者多数の場合は抽選)

〈 印刷物紹介 〉

「犬山市史－史料2・自然－」、発行：犬山市(57. 3. 31) 3,000円

(自然の歴史、地質、気象、動物、植物、災害) P.436

問い合わせ先：犬山市教育委員会市史編さん室

「東三河の中央構造線」横山良哲著 51. 2. 13発行、P.55、有料

希望者は、鳳来寺山自然科学博物館等へ。

行 事 案 内

期 日	主 催	内 容	備 考
58. 1. 23	名古屋東・西支部 尾張支部	観察研修会 於弥富野鳥園 (冬鳥の観察・映画)	支部員別 途連絡
58. 1. 23	西三河支部	矢作川河口の冬鳥観察会	御支部連絡
58. 2. 11	協 議 会	研修会 於中小企業センター 13:15~ 1. 野鳥と環境 岩崎龍生(会員) 2. みんなで調べる自然観察 浜口哲一	別途連絡
58. 2. ²⁶ / ₂₇	日本自然保護協会	雪上自然観察研修会 50名 於小岩井農場(岩手県) 有料	対象: 自然観 察指導員

(参 考)

支部の総会等予定

知多: 1月下旬~2月、奥三河: 1月16日、東三河: 1月30日

編 集 後 記

協議会ニュース第2号がおくればせながら刊行することができました。会員の皆様方には、遅れて申し訳なく思っております。次号からは、このようなことのないようにしたいと思っております。本年は支部の設置、本紙の創刊、支部主催の自然観察会等があり、県主催の自然観察会にも指導員を送ることもできました。10月には会員が171名に増えました。本紙のはたすべき役割の大きいことにおどろいています。現在のところでは、皆様方に満足できるようなものではありませんが、だんだんよくしていきたいと思っております。(多和田 政彦)

この機関紙が皆様のお手元に届くのは、年末のあわただしい時と思います。この1年間、協議会としてはそれなりの体制づくりを進めてきました。来年は、これを基盤としてさらに充実した活動を行うよう努力してまいりたいと思っております。皆様方の積極的な参加を期待しております。(佐藤 国彦)